



1、2019モニタリング報告－5

1) F地点(旧水田)

F地点は昨年バックホーにより、抜根とネザサの根の除去作業を行いました。しばらく観察していましたが、水田は壊れた状態で石垣は崩れ、水が抜けてしまい乾燥したままの状態でした。そこで、石垣を応急修理し、水が漏れているところを埋めて水が溜まるようにしました。



F地点上段作業前(北から: 2019年3月24日) **F地点上段作業後**(2019年3月25日)

上写真はF地点水田の上段部分で、左が作業前、右が作業の次の日の状態です。作業前は中央部分にわずかに水が溜まっており、石垣が崩れて水が溜まらなくなっている状態でした。そこで、上右写真にあるように石垣の上端と手前の自然歩道沿いに石を積んで粘り気のある土を入れて土手を造り水が溜まるようにしました。作業した翌日には水が溜まり始めました。



F地点下段作業後(2019年7月28日)

7月28日(下写真)には、自然歩道沿いの手前の部分が小さな池状になり、奥はミゾソバの大きな群落になりました。写真中央に左右に伸びる石の列がわずかに見えますが、現在はこの部分がイノシシに崩されて、画面奥の左側を中心に大きくかく乱されてしまいました。イノシシのかく乱は1回だけで継続していないようです。しかし、イノシシにとっては水浴びにちょうど良い場所で、ヌタ場になってしまうかもしれません。

右上写真は作業前の状態で、手前が下段、中央の石垣の上が中段、奥の段（一部石垣）の上が上段になります。

中段は画面中央に溝が掘られたことにより、水が抜けて両側が乾燥化していました。2013年11月の植生回復作業で溝を埋めて石垣を補修しましたが、その後イノシシに崩され、2回ほど補修しました。作業前の状態はなんとか石垣の状態を保っていましたが、一部が崩れた状態で、今回の作業で修復し、中段石垣の上に石を一段追加して並べて土手を造り水が溜まるようにしました（右中写真）。

奥に見えるのは上段の石垣で、右上写真は作業前で石垣がほとんど見えていません。右中写真は作業後で上段の石垣の上に石を一段追加して水が溜まるようにしました。

上・中段ともにすぐに水が溜まり始め、湿地状態が回復しました。写真左側に自然歩道がありますが、この自然歩道沿いが浅い池状になっています。

右下写真のように約4か月後には様々な植物が出現しました。特に中段は水田の耕作土が厚く溜まっており、バックホーの進入時にキャタピラが50 cmほど沈み込んでしまったところですがコガマが出現しました。



F 地点・上中段作業前（2019 年 3 月 23 日）



F 地点上・中段作業後（2019 年 3 月 24 日）



F 地点中段作業後（2019 年 7 月 28 日）

下写真は中段を自然歩道側（北側から）から見たところです。石垣の補修作業を行う前（下左写真）は、かつて中央に掘られた溝によって乾燥化が進んでいました。作業後（下右写真）は画面手前の地形がやや高く乾燥していますが、奥は湿地状態になっています。画面右側は下段で、右側の歩道沿いは木の伐採後ヒメコヌカグサが出現したところです。



F 地点中段作業前（2019 年 3 月 23 日）

F 地点中段作業後（2019 年 7 月 28 日）

旧水田の南側（上写真画面奥）には水路が造られています。水路は旧地形の地表面よりも深く掘られており、現在も大雨が降ると深く掘られてしまいます。今年度の作業で、この水路に堰を造って水をせき止めて地下水位を上げ、両側に水を溢れさせてできる限り広い範囲に水が流れるようにするつもりです。



2) 一の沢（G・S地点）

一の沢は、2016 年に木の伐採を行い、2017 年 12 月に伐採した木の抜根作業を行いました。右上写真は抜根後 1 年目の状況で、画面右側が抜根作業を行ったところ、左側のヒコバエがあるところが抜根作業を行えなかったところです。左下から画面中心に向かって一の沢が流れていますが、ミミカキグサ、ミズギボウシ、シラタマホシクサ等が復活したところです。

右下写真は抜根後 2 年目の状況で、右側の抜根後 1

S 地点抜根作業後 1 年目（2018 年 9 月 7 日）



S 地点抜根作業後 2 年目（2019 年 8 月 31 日）

年目（右上写真）のところでは、イヌノハナヒゲが少し出現しましたが、伐根後2年目では全体がイヌノハナヒゲの大きな群落になりました。シラタマホシクサは水の流れ沿いに自生範囲を広げ、イヌノハナヒゲ群落の中に広がりつつあります。

右写真は前頁の写真の手前部分を西側から見たところです。2年目になり伐根したところ全体がイヌノハナヒゲ群落になっており、シラタマホシクサがその中に侵出しているのが見えています。

下写真は一の沢下流の木道沿いのところですが、これまで見てきた一の沢上流部と同じように、伐根後1年目（下左写真）は植物の発芽はまばらですが、2年目（下右写真）ではイヌノハナヒゲが優占する群落になっています。

このように伐根後2年目にイヌノハナヒゲが優勢になるのはO地点でも



S地点抜根作業後1年目（2018年9月7日）



S地点抜根作業後2年目（2019年8月31日）



S地点抜根作業後1年目（2018年7月27日） S地点抜根作業後2年目（2019年7月20日）

見られました。これらのイヌノハナヒゲ群落はこのまま優占が続くのではなく、G地点ではイヌノハナヒゲ群落の中にシラタマホシクサが侵出し主たる植物が交代しつつあります。イヌノハナヒゲ群落は今後遷移が進み、徐々に他の植物に交代していくと予想しています。